

令和7年度 全日本私立幼稚園連合会
中国地区私立幼稚園教育研修会

実施
要項

広島大会

テーマ

子どもが創る「未来」

～命と平和を守る被爆80年のヒロシマから～

期日 令和7年8月19日(火)・20日(水)

会場 ANAクラウンプラザホテル広島
(広島市中区中町7-20)



主催 一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

全日本私立幼稚園連合会 一般財団法人私学研修福祉会

協力 全日本私立幼稚園連合会中国地区私立幼稚園協議会 全日本私立幼稚園PTA連合会中国地区協議会

実施 公益財団法人広島県私立幼稚園連盟

プログラム

1日目 令和7年8月19日（火）

会場：ANA クラウンプラザホテル広島

11：40

受付

12：40

開会行事

開式のことば

中邑 隆哉 中国地区私立幼稚園協議会会長

国歌斉唱

挨拶 尾上 正史 全日本私立幼稚園連合会会長

祝辞 岸田 文雄 様 衆議院議員

湯崎 英彦 様 広島県知事

松井 一寛 様 広島市長

来賓紹介／祝電披露

永年勤続者表彰 代表 宮田美智子 サムエル信愛こどもの園

感謝状贈呈 光岡美恵子 岡山県私立幼稚園連盟理事長

幼稚園賛歌斉唱

閉式のことば

山中 隆司（公財）広島県私立幼稚園連盟理事長

13：30

休憩

13：45

記念講演

「平和への祈りを舞踊に込めて 今思うこと」

森下 洋子 先生

松山バレエ団 理事長・団長 プリマバレリーナ

15：15

休憩

15：30

基調講演

「平和の文化を保育室から育てていこう、子どもと共に」

上垣内 伸子 先生

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所客員研究員

17：00

終了

2日目 令和7年8月20日（水）

会場：ANA クラウンプラザホテル広島

08：30

受付

09：00

分科会

第1分科会（鳥取県）

『自然の中で子どもが感じる「たのしい」を探る』

～本園の園外保育を事例として～

愛真幼稚園

第2分科会（島根県）

「自然との関わりからいのちのつながりを感じる」

益田幼稚園

第3分科会（岡山県）

「ともに育む遊びと学び

～なに？なぜ？ためしてみよう！しらべてみよう！～」

敬愛幼稚園・第二敬愛幼稚園

第4分科会（山口県）

「生き抜く力を育む心に響く保育とは

～自分自身を認め、自分を大切にする～」

第二るんびに幼稚園

第5分科会（広島県）

『保育における「暗黙のルール」と子どもの声の狭間で』

福山リじょう幼稚園、廿日市聖母マリア幼稚園、

谷の百合幼稚園、西条幼稚園、めばえ幼稚園、

認定こども園西部めばえ

第6分科会（設置者・園長・ネクストリーダー）

「こども誰でも通園制度について」

こども家庭庁成育局保育政策課

課長補佐 出口 貴史 氏

12：00

閉会

記念講演

8月19日（火）13:45～15:15



「平和への祈りを舞踊に込めて 今思うこと」

俯瞰図番号 (B1)

講師 森下 洋子 先生

松山バレエ団 理事長・団長
プリマバレリーナ

プロフィール

広島県広島市出身

日本を代表する世界的バレリーナとして、幼少期よりバレエに取り組み、国内外で数々の舞台に立ち続けている。1974年にはヴァルナ国際バレエコンクールで金賞を受賞し、モナコ留学を経て、1976年「白鳥の湖」で文化庁芸術祭大賞を受賞。その卓越した技術と表現力は日本のみならず世界中で高く評価されている。

1997年には文化功労者として顕彰され、2002年には日本芸術院会員に就任。さらに、2024年には旭日重光章を受章されるなど、数々の栄誉を受け続けている。現在も国内外のバレエ公演で中心的な役割を担いながら、新作バレエにも意欲的に挑戦し、バレエ界の革新に貢献されている。

著書も複数手掛けられ、バレエを愛する多くの方々に影響を与え続け、長年にわたる活動は、バレエ界の未来を切り開く大きな力となっている。

基調講演

8月19日（火）15：30～17：00



「平和の文化を保育室から育てていこう、 子どもと共に」

俯瞰図番号（A1）

講師：上垣内 伸子 先生

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所客員研究員

概要

子どもと共に創る未来とは、生きとし生けるものすべてが大切にされ、自由と親しみに満ちた世界ではないでしょうか。そこには、主体として生き、助け合い、かけがえのない存在として互いを尊重し合う姿があります。けれどもそのような『未来』は遠くにあるものではなく、日々の保育の営みから生み出されていくもの、私たちの保育室とつながっている世界です。

国連が掲げる持続可能な開発のための目標：SDGsのゴール16は『平和』であり、平和の文化の構築は、ゴール4で示される「持続可能な開発のための教育（ESD）」の中核をなしています。私は、国連ユネスコ傘下のNGO「世界幼児教育・保育機構（OMEP）」のメンバーとして、長年世界の保育者たちと子どものWellbeingや幼児教育について語り合ってきました。このOMEPが重視する平和教育、ESD、子どもの権利の視点を踏まえ、『今、ここから始まる未来を育む保育、平和の文化を育む保育』について、皆様と共に考えていきたいと思います。

プロフィール

元十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科教授。

十文字学園女子大学名誉教授。

現在は、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所客員研究員。

お茶の水女子大学大学院（児童学専攻）修了。

専門は保育学、児童学、発達臨床学。

生活を基盤とした遊びの展開や、乳幼児期からのESD（持続可能な開発のための教育）に関心を持っています。OMEP（世界幼児教育・保育機構）日本委員会の理事として、世界の保育者と共に子どもの権利擁護とESDの推進に取り組む。

NPO法人練馬春日町幼児教室「はじめのいっぽ春日町」理事長、臨床発達心理士。

主な著書、「自由保育とは何かー形にとらわれない心の保育」（フレーベル館）、

「持続可能な社会をつくる日本の保育ー乳幼児期におけるESD」（かもがわ出版）、

「今、この子は何を感じている？ 0歳児の育ちを支える視点」

（ひかりのくに）など。

分科会

8月20日(水) 9:00~12:00

第1分科会【鳥取県】

テーマ

『自然の中で子どもが感じる「たのしい」を探る ～本園の園外保育を事例として～』

俯瞰図番号 (B3)

指導助言者 近藤 剛 先生(鳥取短期大学幼児教育保育学科教授)

担当園 愛真幼稚園

● テーマ設定理由

愛真幼稚園では「あそびの保育」を通し、園のめざす子ども像として「生命力、生活力に溢れた元気いっぱいの子ども」、「意欲をもって主体的に生活を創造していく子ども」の姿を目指している。その実現に向けて、自然を身近に感じ触れることができる環境を整えていくこと大切にしている。

本園は鳥取市の中心市街地に位置して近隣が住宅等に囲まれていることもあり、自然体験の場を求めて園外にも多く出かけている。海、山、川、森の中の散策などは年間20～30回を数え、たくさんの自然に親しみ、生き生きとした姿で遊ぶ子どもたちが多く見られる。前日に園外保育に出かけることを伝えると「やったー!」と喜び、園外から帰ってくると「たのしかったー!」という声が多く聞こえる。

このように積極的に園外保育を導入する本園ではあるが、その計画は保育者主導での立案が多くなる。園外保育を終えるたびに「たのしかった」という子どもたちの声は聞かれるが、子どもたちにとって「たのしい」とはどのような内容なのか、環境が変わることによって「たのしい」に何か変化はあるのか、保育者の介入の有無で子どもたちの「たのしい」に違いはあるのか、どのような体験が子ども達の「たのしい」に繋がるのか、園外保育を終えるたびに疑問に思うことが多々でてきた。

そこで、本園の特色でもある自然体験を中心とした園外保育を通して、子どもが感じる様々な「たのしい」に着目し、多くの園外保育の記録の中から子どもたちの言動を読みとり、今後の園外保育での自然体験がさらに楽しく、魅力的、効果的なものとなるようにとの願いから、本主題を設定して研究を進めていくことにした。

● 研究の概要

- 1) 園外保育で子どもたちはどんなことに夢中になるのだろうか? 「たのしい」と思う瞬間はどんな時だろうか? これらの疑問を解決するため、実際の園外保育中の子どもたちの発言や動きを電子メディアに記録して検討する。
- 2) 子どもたちの発言記録を分析データとして用いることで、子どもたちの「たのしい」を分類するとともに、実施環境や保育者の介入の有無などの保育環境による違いは見られるのかを探ってみる。
- 3) 分析結果をもとに、子どもたちが味わう「たのしい」について、自然体験を主目的とした本園の園外保育の取り組みを事例にして考察する。

○日程

- 9:00～ 9:05 開会(司会者)
- 9:05～ 9:45 研究発表(発表者)
- 9:45～ 9:55 質疑応答
- 9:55～ 10:00 ビデオ上映(発表者)
- 10:00～ 10:15 休憩
- 10:15～ 11:15 グループ討議・発表(司会者)
- 11:15～ 11:50 指導助言(指導助言の先生)
- 11:50～ 閉会(司会者)
- 12:00～ 終了

第2分科会【島根県】

テーマ

「自然との関わりからいのちのつながりを感じる」

俯瞰図番号 (B3)

指導助言者 井田 昭彦 先生（島根県立少年自然の家研修支援スタッフ）

担 当 園 益田幼稚園

● テーマ設定理由

子どもは、自然とふれあう中で、好奇心や探究心を膨らませる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に「自然との関わり・生命尊重」があるように、自然との関わりは子どもたちに大きな影響を与え、自然とのふれあいを通して「生」と「死」、いのちの大切さを考えることができる。

今回、自然との関わりを通して、子どもたちがどのようなことを学び、どのように心が動いていくか、実践を通して考えていきたい。

● 研究の概要

本園では仏教保育を根幹に置き、普段から自然との関わりを通して「いのちの教育」を行っている。幼児期から「いのち」について考え、理解することは難しいことだが、知識として言葉で教えて育むよりも、幼児期から人と人、人と他の生物、人と自然とのふれあいをたくさん経験し、五感による体験的実感を通して育む必要があると考えた。

子どもたちが、より「いのち」を学び「いのちの大切さ」を実感できる経験は何かを考え、色々な視点からアプローチをはかって、「生」と「死」を子どもたちと一緒に考えていきたい。

○日程

- 9:00～9:40（40分） 研究発表
- 9:40～10:20（40分） 研究協議
- 10:20～10:40（20分） 発表
- 10:40～10:50（10分） 休憩
- 10:50～11:30（40分） 指導助言
- 11:30～12:00（30分） 閉会

第3分科会【岡山県】

テーマ

「ともに育む遊びと学び

～なに？なぜ？ためしてみよう！しらべてみよう！～

俯瞰図番号(F1)

指導助言者 山本 房子 先生（学校法人中国学園中国短期大学准教授）

担 当 園 敬愛幼稚園・第二敬愛幼稚園

● テーマ設定理由

昨年度の夏、年中児が浜遊びで骨を見つけ、知りたい、調べたいと興味をもち、自分たちで調べたり、自然史博物館の方に話を聞いたりした姿があった。遊びの中で生まれる興味、好奇心、探究心が学びへとつながるのではないかと、そしてその学びから経験を生かして、就学後の自己選択の幅が広がるのではないかと考えた。それらを就学後にも継続してほしい、小学校の先生方とも共有したいという思いがあり、今年度の園目標「なに？なぜ？ためしてみよう！しらべてみよう！」から、今回の研究テーマを設定した。

● 研究の概要

本園は、学区の小学校との交流会を20年以上前から行なっている。例年、年長組が1年生、4年生、5年生、6年生と交流している。小学校側としては、園児との交流を行うことにより、自分自身の新たな発見や成長を実感し、相手を思いやる心が豊かに育ち、人と関わる力を身に付けることができるようになること、幼稚園側としては、小学生との交流を行うことにより、年上の小学生の優しさに触れ、小学校生活への安心感や期待、また小学生への憧れをもつことができるようになることをねらいとして行なってきた。コロナ禍では交流をする機会もなくなったが、再開したことにより交流会の大切さを実感した。

これまでに保幼小連絡会での情報交換や、交流会の計画・振り返り等を行い、情報共有だけでなく、職員間でも交流してきた。その中で園と小学校との間で育みたい子どもの姿や学びについての視点の違いにも気付くことができた。このことから園と小学校とが一緒に研修・交流することで得られる学びは大きいと感じた。さらに、園と小学校との段差をゆるやかにしていきたい、お互いの視点をすりあわせていきたいという思いから、例年行なっている、担任同士がお互いの保育を見合う園内研修を令和5年度から小学校やこども園の先生方に見に来てもらったり、幼小接続協議会の時間を設けたりしている。互いの思いを伝え合い、園と小学校がともに育むことができるよう研究を進めていきたい。

○日程

9:00～9:05	開会
9:05～9:50	研究発表
9:50～10:00	休憩
10:00～11:00	グループ協議
11:00～11:20	グループ発表
11:20～11:50	助言
11:50～	閉会

第4分科会【山口県】

テーマ

「生き抜く力を育む心に響く保育とは ～自分自身を認め、自分を大切に～」

俯瞰図番号 (E5)

指導助言者 重村 美帆 先生（宇部フロンティア大学短期大学部准教授）
担 当 園 第二るんびに幼稚園

● テーマ設定理由

昨年、令和3年度満3歳児で入園してきたY児を中心として心身共に成長していく姿を『生き抜く力を育む 心に響く保育とは ～生き抜くための力を育てる～』という視点で研究を進めた。その中で見えてきた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「自立心」「協同性」の育ちが「生き抜く力」につながるのではないかと見えてきた。この「自立心」「協同性」の育ちは、子どもが自分自身を認めることで健全な自己肯定感の基盤となり、自分自身を大切にすることができると他者との関係も良好になり、安心して成長する環境が整うことで育まれるのではないかと考える。それは、私たちが取り組んでいる“まことの保育”の命の尊厳や相手を思いやるという、ともに心豊かに生きていくための基盤となる心の教育にもつながるものである。

昨今、自己肯定感の大切さが謳われることも多い。変化の激しい社会において、子ども自身が自分の存在や感情を大切に感じられるように、また、自分を肯定的に受け入れ、価値があると感じること、困難や挫折を乗り越え、自信をもって自分らしく生きられる子どもに育つためにはどのような働きかけがあるのかという次なる課題が浮かび上がった。

一人ひとりの子どもにはそれぞれ違う特性がある。そんな子どもたちが互いを認め合うためには、先ず自分自身を知ることが必要となる。がんばった自分、がんばることが出来なかった自分、成功した自分、失敗した自分…それは良い悪いではなく、それらすべてが自分であるということに気づき、そうすることでまた、他者に対しても良い部分、悪い部分を認め、共感しあえるのではないかと考える。

● 研究の概要

「生き抜く力を育む 心に響く保育とは」を主題とし、昨年は一人の幼児（Y児）を対象に【生き抜くための力を育てる】というテーマに沿って研究をした。自分自身を取り巻く様々な状況の中で不安や葛藤を抱きながらも、どのようにして乗り越えていくことができるのかを考えた。この研究を通して家庭内での保護者、幼稚園での保育者、友だちなどY児にかかわる人・物・事などの働きかけが生き抜く力を育てる糧となったと感じた。今年度は副題に【自分自身を認め、自分を大切にする】というテーマを掲げた。Y児が今後自分の意志で行動し、問題を解決していくには、まずは自分と向き合うことが必要なのではないかと考えた。そこで園行事や事例を通してY児自身が自分を知り認めていく中で物事を成し遂げたり達成感を得られたりする姿から研究を深めていった。

○日程

9:00～9:40	研究発表
9:40～9:50	質疑
9:50～10:50	指導講話 指導者 / 宇部フロンティア大学短期大学部 准教授 / 重村美帆 内 容 / 自己肯定感を育む保育とは
10:50～11:05	休憩
11:05～11:25	グループ協議 / 活動場面（写真・動画）についての意見交換
11:25～11:45	意見発表とまとめ
11:45～	閉会

第5分科会【広島県】

テーマ

『保育における「暗黙のルール」と子どもの声の狭間で』

俯瞰図番号 (B2)

指導助言者 濱田 祥子 先生（比治山大学准教授）

担 当 園 福山りじょう幼稚園、廿日市聖母マリア幼稚園、谷の百合幼稚園、
西条幼稚園、めばえ幼稚園、認定こども園西部めばえ

● テーマ設定理由

本分科会では、広島県私立幼稚園連盟の教育実践研究会における研究を発表する。メンバーは、令和6・7年度の研究会に参加している6園6名の幼稚園教諭である。私たちは令和6年4月より1年間にわたり、計6回の保育カンファレンスを重ねてきた。その対話の中で見えてきたのは、自身あるいは自身が所属する園にとっての当たり前が、他の保育者や他園にとっては当たり前ではないということである。例えば、ある園では「雨の日は外で遊ばずに室内で過ごす」ことが当然である一方、他の園では「どうして雨の日に外へ出たらいけないの？」という疑問が生じるなどである。こうした具体的な事例を語り合うことで「本当にこれでよいのか?」「なぜ私はこうしているのか?」といった問いが次々と生まれていった。

そこで、保育実践の背景にある、明文化はされていないが確かに存在する慣習、すなわち「暗黙のルール」や「隠れたカリキュラム」に着目することとした。これらは、本来は子どもの権利を保障するための文化として根づいているはずであるが、時として、「今」の子ども声とズレが生じることもある。保育者は、園に根づいた文化と目の前の子ども声との狭間に立っている。狭間にいるからこそ、保育は魅力的であり、悩みも尽きない。

● 研究の概要

保育カンファレンスでは、日々の保育についてざっくばらんに語り合ってきた。その際、ふとした疑問や小さな葛藤を表出し、仲間として考えることを大切にしてきた。これらを「暗黙のルール」や「隠れたカリキュラム」という視点から見つめ直すことで、子どもの発想の豊かさに驚かされたり、大人が変わる必要性に気づかされたりと、保育者の心は揺れ続けている。

分科会当日は、いくつかの事例を発表者の率直な想いとともにご紹介する。また、「暗黙のルール」や「隠れたカリキュラム」はどの園にも存在しているからこそ、参加者の皆さんにも日々感じていることや考えていることを共有していただきたい。グループワークを行い、発表を聞くだけでなく、参加者一人ひとりが省察するとともに保育を言語化する時間を設ける予定である。園の文化と子どもの声の狭間にいることを共に喜び、共に悩み、そして新たな視点を持ち帰る——そんな場としたい。

○日程

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 9:00～9:10 | 開会 |
| 9:10～9:30 | 隠れたカリキュラム・暗黙のルールとは |
| 9:30～9:50 | 研究発表1：こちらのご都合？ |
| 9:50～10:05 | グループ討議1 |
| 10:05～10:25 | 研究発表2：子どもも大人も楽しむ土台 |
| | ①モヤっとすること |
| 10:25～10:35 | 休憩 |
| 10:35～10:55 | ②ともだちっていいな |
| 10:55～11:10 | グループ討議2 |
| 11:10～11:30 | 研究発表3：「できない」「やりたくない」はそのままでもいいの？ |
| 11:30～11:45 | グループ討議3 |
| 11:45～12:00 | まとめ |

第6分科会 【設置者・園長・ネクストリーダー】

テーマ

「こども誰でも通園制度について」

俯瞰図番号 (E1)

講 師 こども家庭庁成育局保育政策課 課長補佐 出口 貴史 氏

● 肩書経歴等

- こども家庭庁成育局保育政策課の課長補佐。
- 令和4年に厚生労働省に入省し、令和5年度のこども家庭庁発足より現職。
- 一時預かり事業やこども誰でも通園制度など、地域の実情に応じた多様な保育所等への支援や、支援に係る地方公共団体への助言及び情報提供等を担当。
- 官民様々な児童館・放課後児童クラブ・一時預かり事業などに、20年以上従事した保育士。

● 概要

「こども誰でも通園制度」の制度概要と、本格実施に向けた準備について、実施状況等を踏まえながら説明します。

○日程

- 9:00～11:00 行政説明、補足的に実施状況や手引きの説明（休憩を含む）
- 11:00～11:50 質疑応答
- 12:00 12:00 閉会